

IPV(不活化ポリオワクチン)が
2012年9月から定期化されます。

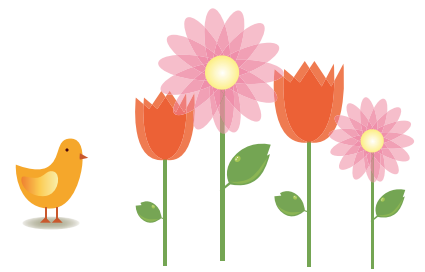
●●ポリオ(急性灰白髄炎、いわゆる「小児まひ」)とは?●●

【不活化ポリオワクチン(IPV)】

- ①ワクチンの効果は高く3回接種で血液抗体価を上昇させ免疫がつく。
- ②平成24年9月から定期接種になります。
- ③スケジュール
3ヶ月～接種可能。
3～8週間隔で3回接種します。4回目(追加)は半年以上あけて(1年後が目安)とされています。
※4回目の追加接種の時期は海外では4～6歳が一般的で、自治体ではまだ決まっていません。
※百日咳に乳児がかかると重症になりやすいので、11月に導入される四種混合ワクチン(三種混合+IPV)を待つことなく、生後3ヵ月になったら三種混合ワクチンを受けてくださいね。
いずれも7歳6ヶ月まで公費がおります。
- ④万が一重い健康被害が生じた場合は、予防接種法(定期接種)や独立行政医薬品医療機器総合機構法(任意接種)に基づく給付を受けることができます。
- ⑤副反応
軽い副反応:注射のため、接種部位の疼痛、赤くなる、腫れる。発熱など。これらの症状は通常数日で自然に軽快します。
重い副反応:非常にまれに、アナフィラキシーショック反応を起こす可能性がある。

【経口生ポリオワクチン(OPV)】

- ①日本ではH24年8月まで定期接種されていましたが、9月以降は中止となりました。
- ②経口投与のため注射に伴う痛みや副反応がない。
- ③ポリオ生ワクチンを服用すると本人または家族を含め周囲の人にポリオウイルスが感染するワクチン関連麻痺(VAPP)の危険が百万～数百万人に一人の割合である。日本では、2001年度以降の10年間で15人、保育園などや親への二次感染を含めると21人です。
- ④OPV1回接種だけの場合は2ヶ月あけてから、IPV3回接種します。
- ⑤日本では、OPV2回接種が済んでいれば終了です。



●●ポリオ（急性灰白髄炎、いわゆる「小児まひ」）とは？●●

ポリオウィルスは人から人へ感染します。感染した人の便の中に排泄（はいせつ）されたウィルスが口から入りのどや腸に感染します。感染力は強いです。感染したウィルスは 3～35 日間（平均 7～14 日間）腸の中で増えますが、ほとんどは症状が出ない不顕性（ふけんせい）感染で終わり、一生、免疫が得られます。症状が出る場合は、ウィルスが血液を介して脳・脊髄（せきずい）へと感染し、麻痺を起こすことがあります。

100 人中 5 人程度はカゼに似た症状がでて、発熱に続いて頭痛、嘔吐（おうと）が現れます。一部の人には永久に麻痺が残ります。麻痺の発生率は感染した人の 200～1,000 人に 1 人の割合です。呼吸筋の麻痺で呼吸困難になり死亡することもあります。

日本では 1950 年代～60 年代に大流行しました。ピーク時には約 6500 人の患者さんが発症して、2000 人を越える死者が出た年もあります。身近に起きる恐ろしい感染症だったんです。

そこで、国内で、生ワクチンを接種したところ、患者さんは激減し、81 年以降、野生株のポリオの患者さんは報告されていません。

しかし、アフリカやインドなどでは今でもポリオが流行しており、世界の交流が盛んになってる現在ではウィルスが日本へ侵入してくる（いる）可能性があります。ポリオを根絶した中央アジアのタジキスタンや中国で昨年、海外から入ってきたポリオウィルスが流行し死亡者も出ました。

ワクチン接種をしない選択をする人が増えれば、日本でも同じことが起こる可能性があります。

日本の子どもをポリオから守るために、社会としての免疫を保つことは大切です。